

富貴寺境内石造物保存修理事業 参考資料

(修理前のようす 及び 修理方法等について)

【事業主体】宗教法人 富貴寺
【事務局】豊後高田市教育委員会

■ 富貴寺石殿 保存修理工事前のようす

- ・経年による笠部(屋根部分)への着生生物(コケ類・地衣類)の繁茂が顕著でした。



■ 富貴寺石殿 保存修理工事前のようす

- ・経年による笠部(屋根部分)への着生生物(コケ類・地衣類)の繁茂が顕著でした。



■ 富貴寺石殿 保存修理工事前のようす

- ・参道向かって左側の石殿も同様に着生生物が付着。また、笠部は一部大きく欠損していました。



■ 富貴寺石殿 保存修理工事のようす

- ・現地での作業は困難なため、石殿の本体(笠・軸部)は一旦搬出し、修理業者の工房(大分市)でクリーニング及び劣化防止処理を施しました。



■ 富貴寺石殿 保存修理工事のようす

- ・搬出作業後、現地にて欠損した笠部(屋根部分)の部材と思われる石材を発見しました。
検討の結果一欠損箇所と合致したため、笠部の接合・復元作業を行いました。



■ 富貴寺板碑 保存修理工事前のようす

- ・経年による碑身への着生生物(コケ類・地衣類)の繁茂が顕著でした。また、板碑は傾斜状態で立っていたため、雨水・日光・着生生物の影響を受けやすく、また不安定な立地は、災害による倒壊・破損の危険性も考えられました。



■富貴寺板碑 保存修理工事のようす

- ・現地での作業は困難なため、板碑本体は一旦搬出し、修理業者の工房(大分市)でクリーニング及び劣化防止処理を施しました。



■ 富貴寺板碑 保存修理工事のようす

- ・現在地での板碑再設置は、作業困難な上に危険性も高い。また、来訪者にも認識しづらい場所であるため、関係各所と協議の結果、富貴寺境内の別場所に移設します。



移設先は、富貴寺大堂東隣の平場

富貴寺板碑を設置する基礎を作っています。



■ 富貴寺笠塔婆 保存修理工事前のようす

- ・経年による笠・塔身への着生生物(コケ類・地衣類)の繁茂が顕著でした。



■ 富貴寺笠塔婆 保存修理工事のようす

- ・現地にて着生生物除去剤を塗布して枯死させたあと、石造物に負担のかからないもので除去作業(=クリーニング)を行いました。その後、劣化防止剤を塗布含浸させます。



■「富貴寺境内石造物保存修理事業」について

国史跡・富貴寺境内に所在する大分県指定有形文化財の石造物(富貴寺笠塔婆・富貴寺板碑・富貴寺石殿)に対して、クリーニング及び劣化防止処理などの保存修理作業を行う。宗教法人富貴寺が事業主体となり、大分県及び豊後高田市による補助事業。

■各石造物及び修理方法について

○富貴寺笠塔婆[鎌倉時代/1241(仁治2)年 他]

[概要]柱状の安山岩自然石の塔身に笠と宝珠(うち2基は欠失)をのせた簡素なつくり。塔身の種字に阿弥陀仏ないし阿弥陀三尊が多く、造立の趣意が極楽往生を願ったものであり、当時の浄土信仰の実態をよく示している。

[修理]地衣類・コケ類などの着生生物の繁茂が顕著であるため、着生生物除去剤を塗布して枯死させた後、石造物に負担のかからないもので除去作業(クリーニング)を行う。その後、劣化防止剤を塗布含浸させる。



○富貴寺石殿[南北朝時代]

[概要]参道石段に一对所在。軸部の正面・裏面に3体ずつ、左右側面に2体ずつ計10体の十王を浮き彫りにしている。極楽浄土に対応する冥界の思想とともに、中世に広く普及した“十王信仰”を表現する。

[修理]笠部(屋根部分)には地衣類・コケ類が繁茂するほか、軸部にもカビ・塩と思われる痕跡もあり。着生生物が顕著な笠・軸部は一旦搬出し、別の作業場でクリーニング及び劣化防止処理を行う。

また、搬出作業中に現地で欠損した笠部の部材を発見した。今回の保存修理作業の中で接合・復元を行う。



○富貴寺板碑[南北朝時代/1361(延文6)年]

[概要]参道入口の石段脇に所在。延文六年(1361)の僧祐禪の七回忌供養によるもの。祐禪は京都から富貴寺にきた僧で、富貴寺大堂の修理に尽力した。

[修理]着生生物の繁茂が顕著である上に、現位置での環境は保存上好ましくないため、塔身は一旦搬出し、別の作業場でクリーニング及び劣化防止処理を行う。その後、富貴寺境内の別場所に設置固定する。

